

Ⅱ 道路改良事業：一般国道 432 号 竹原バイパス

(1) 事業概要

- ① 事業箇所 竹原市下野町～竹原市新庄町
- ② 規模等 道路延長：4,300m 車道幅員：13.0m（全幅員：25.0m）
- ③ 全体事業費 9,800 百万円（前回の再評価時は 7,100 百万円）
- ④ 工期 平成 6 年度～令和 13 年度（前回の再評価時は平成 6 年度～令和 7 年度）

(2) 再評価の事由

前回の再評価後 5 年が経過した時点で継続中の事業であるため。

(3) 審議内容

① 事業の内容と必要性

一般国道 432 号は、竹原市を起点として、庄原市を経て島根県松江市に至る延長約 214 km の幹線道路であり、交通量は、令和 3 年度の道路交通センサスによれば、約 11,970 台／日である。特にこの路線は、竹原市内から一般国道 2 号や山陽自動車道河内 IC、また、広島空港へアクセスする経路として利用されている。

しかしながら、道路の交通容量と比較して交通量が多く、また、賀茂川を横断する 2 橋の橋梁及び前後の線形が悪いこともあり、交通の混雑が著しい。この状況を解消するために、当事業を推進していく必要がある。

また、交通の円滑化や幹線道路として大規模災害時の緊急輸送道路としての機能の確保の観点からも、本事業の必要性は大きい。

② 事業を巡る社会情勢及び必要性等の変化

国勢調査の人口を比較すると、竹原市の人口は、平成 27 年度の 26,426 人に対し、令和 2 年度 23,993 人と減少傾向にあり、平成 27 年度の道路交通センサス約 14,259 台／日に対して、令和 3 年度は 11,970 台／日と交通量が減少している。

しかしながら、前述のとおり、竹原市内から一般国道 2 号や山陽自動車道河内 IC、広島空港へアクセスする経路の重要性が高いこと、また、広島県第一次緊急輸送道路に位置付けられていることから、数値に現れない効果が期待され、本事業の必要性についての変化はないと判断する。

③ 進捗状況と今後の見通し

事業の完了予定年度が前回の評価時の令和 7 年度から令和 13 年度に変わっているが、その理由は用地交渉の難航及び砂防河川を横断する箇所の構造形式の変更によるものである。

今後は終点側の 2.3 km の区間の工事を推進し、早期事業効果の発現に努めるとともに、残りの区間は地元調整を進め、早期に工事着手できるよう事業進捗が図られる見込みである。

④ 事業費の増減と現時点での費用便益比

前回の再評価時と比較し、全体事業費は 98 億円と 27 億円増加している。費用便益比 B/C については、「費用便益分析マニュアル（令和 5 年 12 月 国土交通省 道路局 都市局）」に準拠して行われた分析によれば、評価期間を供用開始後の 50 年間、社会的割引率を 4.0%とした結果、今回 B/C（総便益（B）：150.6 億円、総費用（C）：142.2 億円）は 1.1 と、前回から変更はない。

⑤ その他特筆すべき事項

当該区間の整備により、走行性が大きく向上するため、大規模災害直後から発生する救命活動・物資輸送などを迅速かつ確実に実施するなど、大規模災害時の安全・安心の確保という、数値に現れない効果が期待できる。

(4) 結論

事業の必要性と費用便益比を勘案し、当該事業の継続実施については適当と判断する。

関係各位には、住民の理解を得て速やかに用地買収を終わらせて工事に着手し、予定としている令和 13 年度までに事業を完了させ、計画どおりの事業効果が得られるよう一層の努力をお願いする。